

2016 November

Vol.52



広島西医療センターNEWS

発行所:独立行政法人 国立病院機構 広島西医療センター

〒739-0696 広島県大竹市玖波4丁目1番1号 TEL.0827-57-7151(代) <http://www.hiro-nishi-nh.jp/>

タイトル「Urban renewal」 撮影者:感染管理認定看護師 吉松崇之

コメント「東京駅の復原工事というと、ドームのほうばかりに目が行きがちですが、最も重要なのは、基礎の強化と免震化だそうです。しかしながら、それを感じさせない駅舎の佇まいに、江戸っ子の粋のようなものを感じてしまいます。」

CONTENTS

■ 広島県災害医療救護訓練…………… 2	■ 地域医療連携病院のご紹介② レディースクリニックとよしま医院…17
■ 地域のリーダー・アラカルト…………… 5	■ 大竹ふれあい健康・福祉まつり…………… 18
■ 第11回広島西医療センター・岩国医療センター初期臨床研修会議…6	■ 日本医師事務作業補助者研究会・広島地方会に参加して…19
■ 受賞報告…………… 7	■ 地域の訪問看護師との連携……………20
■ 第12回 中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会に参加して…8	■ 栄養士のつぶやき①⑦……………20
■ 第9回広島西医療センター祭り…………… 10	■ 還暦お祝い会「～にじいろの花束～」……………21
■ 9月27日(火)新人看護師リフレッシュ研修を行いました…13	■ 患者図書室から……………22
■ 研修企画隊による『KYT 研修』……………14	■ 少し足をNova Savor……………23
■ H28年度救急医療功労者知事表彰…………… 15	■ 地域医療連携室実績報告……………23
■ 地域医療連携病院のご紹介① 津村眼科医院…16	■ 外来診療担当医表……………24

病院理念「患者さんと共に」

■ 基本方針

1. 患者さんの意思の尊重と信頼関係の確立
2. 地域に密着した良質で安全な医療の提供
3. 予防医療への貢献
4. 医療の質の向上のための研鑽
5. 経営基盤の確立

■ 「患者の権利」宣言

1. 個人の尊厳の権利
2. 良質な医療を平等に受ける権利
3. 自分の受けている医療について知る権利
4. 自分の意見を表明し、自己決定する権利
5. 個人のプライバシーが守られる権利

公認キャラクター
「にっしーくん」

平成28年度広島県集団災害医療救護訓練

災害拠点病院としての機能向上をめざして

副院長（救急災害医療担当） 岩 崎 洋 一



今年の10月29日、土曜日の午後に、平成28年度、広島県集団災害医療救護訓練を当院で開催しました。

広島県では毎年秋に、県指定の災害拠点病院の持ち回りで、広島県、広島県医師会が中心となって、地震、列車事故、多重交通事故など、大規模災害を想定した集団災害医療救護訓練を開催しています。今回、その訓練を災害拠点病院である当院が担当することになりました。県内の複数のDMAT隊やドクター・ヘリなどが参加する、大がかりな訓練です。

当日は午前中にドクター・ヘリを使った訓練が大竹インター料金所の待機スペース？を利用して行われましたので、自衛隊の大型ヘリの爆音を聞かれた方も多かったと思います。

当院での訓練開始は13：00で、「広島岩国道路での多重衝突事故により、多くの被災者が発生した」ことを想定したものでした。この災害内容は当日まで現場(当院)には伏せられていました。

当院からはほとんどの医師と多数の看護師、コメディカルそして事務職員、合わせて約130人が参加、院外の見学者等を合わせると約300人の、大規模訓練となりました。

約50人の広島国際大学の学生ボランティアが扮した患者さんが、13：20頃より救急車で当院外来に殺到しました。



トリアージ研修

大規模災害では、**トリアージ**と言って、被災者の重症度を判定して色で区別し、治療の優先順位を決めて診療を進めていきます。**軽症が緑、中等症が黄、重症が赤で、死亡（または救命が困難）が黒**と判定されます。まず玄関でトリアージを行って、初回の判定（診断）をしますが、その後も病状の変化に応じて再トリアージを行い、重症度、治療の優先度を変更して行きます。

今回の訓練のために当院では事前に、4回の研修、その後の机上訓練（配置図上で模型を使って行う訓練）、そしてリハーサル（土曜日開催）を行い、準備を進めてきました。

その甲斐もあり、各エリアでの訓練は非常にスムーズに行えたと評価しております。

最終的に2時間の訓練時間の間に受け入れた模擬患者数は、黒2人、赤6人、黄10人、緑22人で、搬送は40人（うち、ドクターヘリ搬送2人、他院への搬送5人）、入院5人でした。

今回の訓練が役に立つ事態は起こってほしくないものですが、国内では多くの重大な災害が発生しており、南海トラフ地震を含めて集団災害に対する準備が必要です。当院でも災害拠点病院としての災害対策の機能を維持するために、今回の訓練を生かし、継続的な地域災害対応に努めたいと考えています。



リハーサル（オリエンテーション）



リハーサル（災害対策本部）



リハーサル（現場指揮所）



リハーサル（トリアージ）



リハーサル（赤エリア 重症）



リハーサル（黄エリア 中等症）

災害対策本部ロジリーダーの体験！

管理課長 植 田 誠 司



集団災害医療救護訓練本番は、約300人規模で実施され、「広島岩国道路（高速道路）でのトレーラー横転による多重衝突事故」を想定に40名の患者の受入訓練を行いました。私は災害対策本部のロジリーダー（ロジ：後方支援、業務調整員）を担当しました。大竹市消防からの第1報は私が電話を受け、院長に災害発生と受入要請を伝達するところから始まりました。それから2時間の訓練はほぼノンストップで、情報が次から次と入ってきて、情報のやり取り、伝達、指揮命令、転院搬送の連絡等、久々に頭脳をフル回転したような感覚でした。現場に当たっているスタッフは、トリアージや処置、搬送で大変だったと思いますが、本部は本部の大変さ、難しさを味わいました。

本番で良かったことは、現場指揮所や各ブースの情報を取りに出向いたことが良かったと思います。これはリハーサルでの反省で指摘されていたことですが、本部が情報を待っているのではなく、取りに行くことで、迅速で的確な指示ができたと思います。

今回の訓練で、職員も大変貴重な体験と、当院が災害拠点病院であるという認識を改めて感じた訓練となりました。今後も引き続き、研修等は継続し災害時には機能できる体制作りを心がけていきたいと思います。



本番（奥谷院長より挨拶）



本番当日の見学者、マスコミの受付



本番（災害対策本部）

赤エリアリーダー看護師の責任を感じて！

東2病棟看護師長 中 尾 美 幸



昨年10月に中国労災病院での災害訓練見学後、災害訓練ワーキンググループとして取り組みを開始しました。中国労災病院の訓練を見学し、こんな大規模な訓練が当院でできるか不安でした。何から行えば良いのか、手探り状態で看護師長学習会を通して意見交換をおこない、問題点・疑問点を洗い出しその結果をもって事務と調整を行いました。また、トリアージなどの知識については、岩崎副院長の下、研修会を通じて学んでいきました。

ワーキンググループの一員である私は、広島県集団災害医療救護訓練実施に向けて打ち合わせに参加しました。9月に各（治療）エリアの担当が決定し、エリアごとの打ち合わせが実施され準備が本格化しました。トリアージ後の患者の流れ、エリアの設置場所、必要物品等の意見交換が活発に行われ、机上訓練、リハーサルを実施し、新たな問題点をエリアごとで検討しあい、本番にむけて病院一丸となって取り組みました。

私は、**赤エリア**の看護師リーダーを担当しました。当日になり初めて災害の規模と内容を知らされました。災害状況を頭に入れながら、医師、看護師、ロジ（※）との連携を図り訓練に望むことができました。訓練の2時間は、あっという間に過ぎ、訓練終了後は、さわやかな達成感を味わいました。

今回、準備期間から関わることができ学びが多かったと感じています。今回の訓練を活かし、本当に災害が発生したときに病院の役割を果たせるよう準備しておきたいと思います。

※ロジ（ロジスティクス）：災害時等における後方支援（人的、物資、情報等）



大竹消防から患者搬送



本番（災害対策本部より各エリアへ指示）



自衛隊救急車両からの患者搬送



患者受入 (トリアージエリア)



自衛隊による患者搬送 (トリアージ開始)



顔面・気道熱傷患者の受入



患者受入 (黄エリア)



赤エリア



緑エリア



黒エリア



CT撮影検査

ドクター・自衛隊ヘリによる救護訓練



DMAT活動本部 (呉医療DMAT)

当院での訓練本番に先立ち(午前中)に大竹ICを訓練会場にヘリコプターによる災害患者搬送訓練が実施されました。この搬送訓練にはNEXCO西日本、広島県警高速隊、大竹市消防局、広島県内のDMAT隊、自衛隊が参加し、実際に大竹ICを通行止めにして行われました。

当初の訓練想定では広島県のドクターヘリと自衛隊のヘリコプターの両方で患者搬送を行う予定でしたが、ドクターヘリ到着の数分前に実際の患者搬送要請があり、急遽、自衛隊のヘリコプター

のみの患者搬送訓練となるハプニングとなりました。

広島県警高速隊による大竹ICの封鎖(実際)や集合したDMAT隊による情報収集、他の部隊への指示や情報連携など、さすがに、それぞれのプロ集団だけあり各部門が的確な判断と行動で対応されおり、自衛隊によるヘリコプターでの患者搬送(実際に模擬の人間を搬送)は離着陸の迫力と臨場感で圧倒された訓練となりました。



事故の概要の説明を受けるDMAT隊 (JA総合)



模擬患者搬送



自衛隊ヘリへ搬送



飛び立つ自衛隊ヘリ

地域のリーダー・アラカルト (第八話)

『私 と カ ー プ』

大竹警察署長 原 田 修 治



かったと思います。

皆さんご存知のとおり、広島東洋カーブは広島が原爆で焼け野原になって直ぐに誕生しました。当時はチームを維持する財力がなく、市民一丸となって支えたことはよく知られています。そのため、広島県民はカーブファンが非常に多いのも頷けます。亡くなった私の父もいつもラジオを聞きながら一喜一憂して、負けたら機嫌が悪くなっていたものでした。それを見ながら成長した私も当然カーブファンです。

小学校五年生の時には、カーブ少年野球団に所属し、入団間なしの山本浩二や衣笠祥雄選手らが来たファンの集いにも参加した記憶があります。少年野球団に所属すると、ナイターの切符も巨人戦を除いて配布され、友人らと当時の広島市民球場に見に行くと、その芝生の美しさに感動したものです。

しかし、その頃は本当にカーブは弱く、優勝するなど夢のまた夢で、初優勝した昭和五十年、私が高校一年生でしたが、ひょっとしたらひょっとするぞと友達と言いながら、優勝を決めた日は学校から自転車を飛ばして家に帰って見た思い出があります。

その後、警察官になってから広島市民球場を管轄する広島中央警察署に配属となり、カーブの試合がある日は制服を着て球場警備につく機会が増えることになったのです。最初はカーブの試合が見られると喜んでいていたのですが、遊びで見ると仕事で行くのでは気分も全く違い、当時の熱烈なカーブファンに圧倒されると同時に、カーブも非常に強くて、常に優勝争いをし、また市民球場で優勝した時にも警備をしに行き、もみくちゃになったこともありました。またプロ野球史上最長試合となった試合にも警備についており、夜中の零時過ぎまで球場にいたこともあります。

そんなことが続いたため、趣味でカーブの試合を見に行くことがなくなり、気にはなるけど熱烈なファンからは

一歩引いていた感じになっていました。カーブも強い時機から遠ざかり、いつの間にか二十年以上がたっていたのです。

シーズン中は、やっぱり一番カーブのことが気になるにも関わらず、負けては勝って、また負けるということが続き、いつもBクラスに安住するようになっていたため、新聞を見ても飛ばして読んでいました。ここ数年はすっかり諦めて、友人には「今の一番強いチームを応援することにしたけー。そうしたら気が楽なわ」とうそぶいていました。それが今年になると、前半はまあいつもの調子でゴールデンウィークまではええんかなと思っていると、交流戦でも負けず、サヨナラホームランによるサヨナラ勝ちの連続で負けないではないですか。

私はテレビで見るのが何となく怖くて、翌日のニュースで逆転勝ちを見て、ビックリすることが続きました。見ておけば良かったと反省するのですが、どうしても翌日も見れないのです。本当のファンではないのですかね。

ということが続き、とうとうリーグ優勝してしまいました。今では、優勝した翌日の新聞は全部取って保存するくらいカーブファンが再燃しています。

この原稿を書いている段階では、DeNAとのクライマックスシリーズも勝ち進み、あとは日本ハムに勝って日本シリーズで優勝してくれるのを祈るだけです。

そして、広島県人が一丸となって喜び、広島県全体が盛り上がることを祈ってます。

大竹警察署にいと、広島市内の盛り上がりには少し温度差がありますが、大竹署員の中にも熱烈なファンが多くおり、一緒になってここ大竹の地でしっかり応援して行きたいと思っています。

カーブおめでとう。そして頑張れ！



三倉岳での救助訓練
(8月11日 山の日)



防災ヘリによる
人命救助

第11回 広島西医療センター・岩国医療センター合同 初期臨床研修会議

統括診療部長／臨床研修管理室長 新 甲 靖



いきなり長ったらしいタイトルで、読む気を削いで申し訳ありません。

広島西医療センター 初期臨床研修責任者の新甲 靖（しんこう やすし）です。

そもそも初期臨床研修とは？という所から始める訳ですが、医学部に進んだ学生さんは6年間の厳しい教育を受け、無事卒業すると医師国家試験を受験することができます。そして国家試験に合格すると晴れて医師免許を取得して「医師」の資格を得ます。

私が医師になった頃は、学生のうちに将来自分が専門とする科を決めて、医師免許取得と同時にその科に所属するというのがもっとも一般的なコースでした。

ところが平成16年から「初期臨床研修制度」が法的に定められ、医師免許を取得した後2年間は全員の指定した「初期臨床研修指定病院」で幅広い医学的知識・技術を身に付けることが義務付けられました。

この初期臨床研修指定病院というのは、ある程度以上の規模を持つ病院で、広島県内では25病院が指定されており、当院もそのうち1つとして9名の研修医が日々勉強と実地研修に励んでおります。

皆様ご存知の様に、当院は日本最大の病院チェーン店（笑）である「国立病院機構」に所属しており、同系列の岩国医療センターが近くに

あります。岩国医療センターは当院（広島県）と所在県は異なる（山口県）ものの直線距離では12kmしか離れておらず、こちらも初期臨床研修指定病院となっております。

せっかく同系列の病院が近くにあるのですから、それぞれの病院の得意分野で互いに補い合えば、さらに有効な研修になるということで、普段から両院の研修医は行ったり来たりして勉強しております。



その一環として、「年に1～2回、両院の研修医・指導医が一堂に会し、症例検討会や指導医のミニ講義を行ったり、研修の方法に関する疑問点を検討したりする」会議を両院で継続的に開催しており、今回で11回目となったこの会の正式名称が「広島西医療センター・岩国医療センター合同 初期臨床研修会議」（長いので、以下「合同研修会」と省略します）という訳です。

やっとタイトルの説明が終わりました！！

これから今回の合同研修会の内容のご紹介です。



みんな熱心!!

当院院長の奥谷は第1回から皆勤賞ですが、今回は岩国の竹内院長もご参加頂くことができ、両院院長の「後輩を育てる熱い気持ち」が伝わる会となりました。

症例検討会やミニ講義は毎回交代で担当するのですが、今回は岩国の番で、岩国研修医の片山先生が「胃のポリープ病変と種類」について症例を提示を行い、研修医だけでなく指導医も参加しての熱い討論が交わされました。



片山先生の症例提示

勉強が終了すればお待ちかね、食事しながらの「情報交換会タ～イム!!」

普段からの行き来で、お互い顔はほぼ知っているものの改めて自己紹介。

その後は飲み食いしながら「研修医同士でプライベートコソコソ話」や「違う病院の指導医を捕まえてお悩み相談」などなど。

研修医は勉強になるし、刺激を受けるし、メシうまいし、楽しいし…

指導医同士もお互い顔の見える関係になって、日常診療で連携を取りやすくなるし…

ということで、これからもこの会は続いて行く予定です。



受賞報告



報告者 中 村 浩 士 (総合診療科)



会長の生田先生(中央)と広島大学総合内科・総合診療科教授の田妻進教授(右)

去る9月16～17日に東京品川プリンスホテルにて開催された第13回日本病院総合診療医学会学術総会において当科の生田卓也先生が会長賞(左)を、長澤佳郎先生が優秀賞(右)をダブル受賞されました。どちらの論文も当院総合診療科における疫学研究の成果です。ご協力いただいた皆様には大変感謝致します。



第12回 中国四国地区 国立病院機構・国立療養所 看護研究学会に参加して

教育担当師長
高 下 尚 子



2016年9月3日(土)米子コンベンションセンターで開催された看護研究学会に当院から看護師約60名参加しました。学会テーマは、『看護実践力をたかめる～心と技を語る、つなぐ～』でした。

広島西医療センターからバスを貸切、朝6時に出発し、3時間30分の行程で米子に到着しました。

学会では、ポスター発表7題・口演発表1題の8題の発表を行いました。H27年度の院内看護研究発表の論文をまとめなおし、多くの支援を受け、学会発表練習を行い、無事発表できることになりました。発表練習の成果もあり、座長賞を3題（東3病棟・西2病棟・3若葉病棟）頂きました。実りのある発表となり、達成感を味わうことができました。



認知症看護に情報共有シートを導入して ～シートを活用した患者との関わり方の有効性を調査～

東2病棟 早 岐 龍 太



残暑がようやく衰え、秋冷のころとなるはずが温暖化の影響を受けて蒸し暑さの残る9月初旬。私は第12回中国四国地区国立病院機構・国立療養所、看護研究学会（プログラム）に参加しました。道中、ステーキ丼やジェラートに舌鼓をうちながら米子コンベンションセンターへと向かいました。研究開始から研究のまとめ、発表の原稿やポスター作成までの1年半の期間の集大成であったためとても緊張し、発表時は声が裏返り文章をスムーズに言えない部分もありましたが、同行して下さった師長・副師長・後輩のサポートもあり無事発表を終えました。もちろん帰路でも鯖の棒寿司、ソフトクリーム、卵プリンといくつもの美味しい食べ物をいただき帰宅しました。

座長賞

化学療法（CHOP療法）を受ける患者の排便コントロール

～看護師・血液内科経験年数に左右されない排便の観察～

東3病棟 大 西 真 未

化学療法（CHOP療法）を受ける患者の排便コントロールの研究を行い、排便コントロールに対する看護師の現状を把握し、研究を行うことで統一した視点で排便の観察を行うことが出来るようになりました。病棟スタッフの皆様の協力もあり、無事に院外発表を行うことができ、座長賞も頂くことができました。仕事と看護研究の両立は大変でしたが、達成感を得ることができ、とても良い経験になりました。今回の研究で学んだことを活かし、今後の看護に役立つように取り組んでいきたいと思っています。



座長賞

内服インシデントの減少を目指した安全な与薬業務

～インシデント発生要因からみた看護師の行動の振り返り～

西2病棟 岡 村 梨香子



今回1年間研究を行い、発表に至るまでたくさんの方の助言や指導をいただき発表することができました。内服インシデントについてテーマを挙げましたが、確認不足が多いことが分かり、研究を通して、病棟全体で意識を変えていかなければならないきっかけを作る良い機会となりました。また、他病院の研究内容も聞くことができ、研究方法やテーマなど興味深いものがたくさんありとても勉強になりました。



認知症患者にユマニチュードの関わりを実施して 西3病棟 下村由佳

口演発表は、とても緊張しましたが、事前に院内で口演発表練習をさせていただくことができたため、練習時より落ち着いて発表することができました。時間の都合上質問はありませんでしたが、他の口演者の質問に対する回答など、とても勉強になり、今後の看護研究メンバーへの助言などで支援できれば良いと思いました。

※ユマニチュードとは、フランス発祥の認知症ケアの方法です。

神経筋難病病棟における人工呼吸器管理の実態調査 ～環境変化によるウォーターラップへ水の貯留～

1あゆみ病棟 倉恒 隆

9月3日に鳥取県の米子コンベンションセンターで、示説にて看護研究発表を行いました。沢山の方がポスター前で聴講され、とても緊張しました。無事に発表を終えることが出来て良かったです。私は鳥取県出身で、地元で発表する事ができ、又、看護学校時代の級友とも再会出来たので良かったです。今回の学会で学んだことを今後に生かせるように頑張っていきたいと思えます。



重症心身障害(児)者病棟における摂食嚥下困難患者への試み ～直接介入による事例研究を通して～

1若葉病棟 古濱 孝典



今回、患者の摂食嚥下機能の発達状態をアセスメントし、安全な食事介助方法の検討を行った取り組みについて示説発表させていただきました。看護学校の教員の方から、食事介助方法に関して質問があり、学生指導に活かすことができると評価していただきました。さまざまな発表を拝聴することができ、非常に有意義な1日となりました。今後も、患者さんに安心安全な看護を提供ができるように、さらに研鑽に努めてまいりたいと思えます。

重症心身障害児(者)の安楽なケアに影響する看護師の要因について ～口腔ケアの観察を通してわかったこと～

2若葉病棟 石井 隼月

今回、中四国学会の看護研究発表会に参加させていただきました。たくさんの方に協力してもらいながら、1年と少しかけて完成させた看護研究を無事に発表することができて本当に嬉しく思います。この看護研究を行う過程で、メンバーで協力することの大切さ、結果の考えを文献を使いながら文章に起こすことの難しさや、やり遂げたときの嬉しさを実感することができました。発表の際は少し緊張しましたが、研究発表会に参加することで他病院のスタッフとの交流もあり、また他病院の発表を聞くこともでき、良い経験をすることができました。今回の看護研究の取り組みで学んだことを活かせるように、これからも日々探求心を持ち、より良い看護を行なっていく必要があるのだと再認識できました。



座長賞 鼻マスクの着脱時間を統一することで得られた患者の変化

～ BIPAP療法中の患者への看護を振り返って～

3若葉病棟 竹内 志歩



去る9月3日(土)に開催された第12回中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会で示説発表をしました。多くの聴講者を前にすごく緊張しましたが、師長さんをはじめ、頼もしい仲間がそばにいてくれたので何よりも心強かったです。発表後には多くの方からあたたかいお声をかけていただき喜びもひとしおでした。

今回看護研究の取り組みを通して、他者へ伝えることの大変さを痛感するとともに、改めて自分たちの看護を振り返る良い機会となりました。今後も安全・安楽な看護を目指していけるよう日々精進していきます。研究に協力してくださった多くの方々に深く感謝申し上げます。

祭 第9回広島西医療センター祭り

広島西医療センター祭り実行委員会 事務局長 中 谷 勇 樹



平成28年10月1日(土)『第9回広島西医療センター祭り』を開催しました!!

今年は朝から雨が降っており、開催できるかとても不安でしたが、昼前から曇り空になるという予報を信じて開催を決定しました。

奥谷院長の開会挨拶ののち、ステージ出演がスタート。「岩国ブルスムジーク」の吹奏楽から始まり、「太竹フォークダンス連盟」、「げんきなこ」、「旭琴クラブ」、「楠本ヒロシ」、「長尾ちえみライブ」、「ダンスサークルABEATクラブ」、「SKY FLOW」、「エジブリ」、「大竹一番太鼓」の合計9団体の出演によって例年以上にステージがとても盛り上がりました。今年は新たにシンガーソングライター楠本ヒロシさん、SKY FLOW、そして東京などで活躍されている広島出身アイドル長尾ちえみさんにも出演して頂き、会場は来場された方で埋め尽くすほどになり、歌に合わせて手拍子や体を動かされたりして、皆様楽しんで頂けたと思います。



岩国ブルスムジーク



フォークダンス



げんきなこ



旭琴クラブ



楠本ヒロシ



SKY FLOW



ダンスサークルABEATクラブ



長尾ちえみ



大竹一番太鼓

(写真にはありませんが、今年も「エジブリ」の華麗なダンスを楽しませていただきました)

屋台コーナーでは、うどん・たい焼き・綿菓子・ジュースなど大盛況で、毎年恒例にもなっているお好み焼き「藤」の皆さんも忙しそうに焼きそばを焼かれていました。今年からの新メニューとしてソフトクリームやノンアルコールビールも人気でした。ゲームコーナーでは、金魚すくい、ヨーヨー釣り、スーパーボールすくい、釣り獲もん、ボーリングがあり、今年からフリースローが加わりました。企画コーナーでは、今年も当院のゆるキャラ『にっしーくん』の認知度向上をめざし、アイロンビーズ「ツムツムにっしーくん」のコーナーを新たに企画しました。一時は用意していた体験用の席がすべて埋まってしまう人気ぶりで、当院の人気キャラクターである『にっしーくん』をもっと皆様に知って頂いたのではないかと思います。バザー、フリーマーケットコーナーには、「わかば保護者会」

「おおの 福祉会」「エルマーの会」「障害者支援施設原」「友和の里」の各団体に出店して頂きました。

このお祭りは、病院職員が皆様に笑顔と楽しさを提供したい気持ちでボランティアとして企画・運営しているお祭りです。そのため、何かと行き届かない点があったかと思いますが楽しんでいただけたでしょうか。賛同協力頂いたみなさん、この場をお借りして感謝申し上げます。来年もきっと広島西医療センター祭りをやりますので、また皆様の来場をお待ちしています。

にっし〜くん登場
(大人気)

名(迷)司会

ノンアルコールで〜す。



ヨーヨー釣り
釣れた〜

お孫さんと...

学生ボランティア (当院実習の学生さんたち)



職員・看護学生ボランティアスタッフ全員集合!!

9月27日(火) 新人看護師リフレッシュ研修を行いました

教育担当師長 高 下 尚 子



4月に入職した新人看護師は新採用研修を終え、その後、電子カルテ操作教育・技術研修など段階に沿って看護師として一步步歩んでいます。6月から夜勤オリエンテーションを受けて、夜勤も行うようになりました。患者さんや先輩看護師の励ましを受けて日々学んでいます。9月に入り、就職して半年経ちました。ここまでの道のりは、目まぐるしく大変な時期でした。また、看護師としての成長の大きな一歩でもあります。

リフレッシュ研修は、看護師として仕事を続けるための課題を乗り越えるため、リフレッシュし活力を養うことをねらいとし企画しました。院長先生の心温まる差し入れもいただき、リラックスした雰囲気です。ワールドカフェを行いました。

ワールドカフェとは？

知識や知恵は、機能的な会議室の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話を行い、ネットワークを築くことのできる「カフェ」のような空間でこそ創発されるという考えに基づいた話し合いの手法です。

研修の目標

1. 半年間の各自の体験や思いを共有し、お互いを理解する。
2. ワールドカフェを通して、自己の成長を実感できる。
3. 同期との親交を深め、気分転換を図る。

看護部理念

1. 患者さんの思いに沿った看護
2. 患者さんのQOLを高める看護
3. 専門職業人として主体性のある看護をめざし、自己研鑽します。

話し合いの中で、先輩看護師の支え・同期が居ること・患者さんからの感謝「ありがとう」の言葉と患者さんの笑顔と、給与や初ボーナスをもらったことがモチベーションアップに繋がっていました。

同期との交流を通して、初心を思い出した研修となりました。

病院の理念である『患者さんと共に』を胸に、広島西医療センターの看護師として成長してほしいと願うばかりです。



1G発表



2G発表



3G発表



4G発表



5G発表



6G発表

研修企画隊による『KYT研修』

医療安全セーフティ部会

9月21日に、セーフティマネジメント部会主催による「KYT研修」を大講堂で開催し、職員58名の参加がありました。「KYT」とは**危険予知トレーニング**のことであり、あらかじめ状況設定された場面についてグループワークを行い、危険なポイントや事故防止策及び対応について皆で検討し、職員の「リスク感性を高める」ことを目的としています。昨年度までは、実際にベッドサイドの場면을再現し検討していましたが、今年度は、事前に状況設定された場面のいくつかを写真撮影し、その写真をもとにグループワークを行う方法に変更しました。



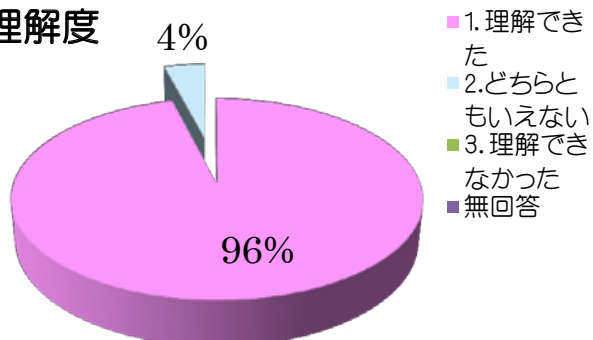
限られた時間ではありましたが、各テーブルで活発な議論が展開されました。ベッド上でのレントゲン撮影の場面について検討したグループは、「点滴のチューブがベッド柵に挟まっていないか。」等の意見が出たなかで、「集団の手抜き」という問題点を指摘してくれました。普段から一緒に仕事をしていない看護師と放射線技師の場合は、お互いが遠慮してしまうことで危険が潜んでいるのではないかといった深く洞察した意見も聞かれました。



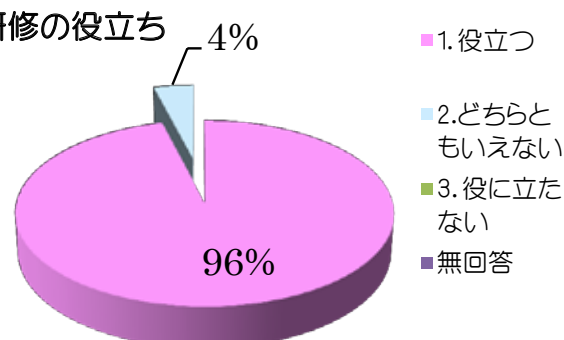
各グループからさまざまな意見が出た中で、「整理整頓」という一つのキーワードが挙がりました。基本的な事ではありますが、普段から「整理整頓」を行うことで、身近に潜む数多くの危険な要因を防ぐことができます。今回の研修を通じて、医療安全の向上の為に、日頃から「整理整頓」を行う必要があることを再認識した1日でした。

研修後のアンケート

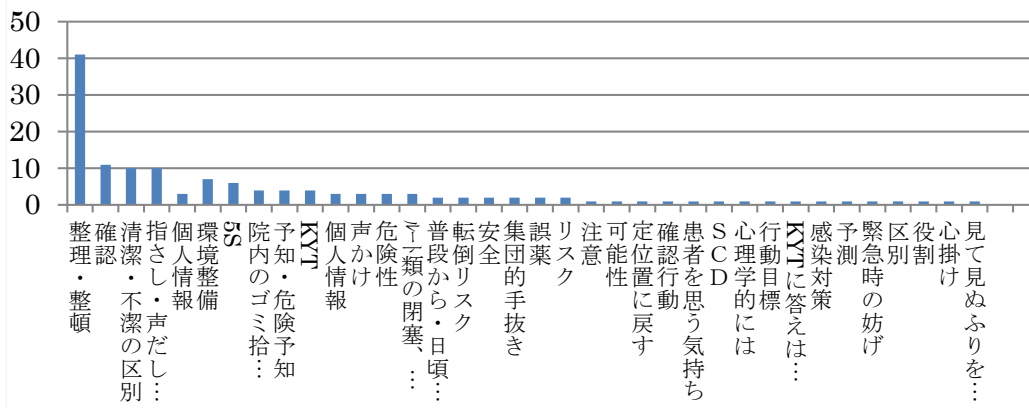
理解度



研修の役立ち



この研修を通じて印象に残った言葉（キーワード）



医療安全セーフティ部会学習 G
(藤本、開智、岡本、原、東、徳山、古濱)

研修者のコメント・感想

- 普段の仕事風景から考えられる重大なリスクをみんなで考えることで自分の考えを広げることができ、良い機会。
- 他職種とのグループワークは、個人の考え、意見から他の人の考え意見、さらにグループ毎の考え、意見へと広がり、危険予知の意識を高めた。
- 昨年度までの作想的に設定した場面ではなく、日常の一場面を設定した事で、今までの経験を基により想像力を働かせる研修になった。

来年度も更にパワーアップした企画をお楽しみに！

H28年度救急医療功労者知事表彰

副院長 岩 崎 洋 一



この度、大竹市医師会（佐川広会長）よりの推挙があり、当院が平成28年度救急医療功労者として知事表彰を受けることとなり、9月9日、県庁にて伝達式が行われ、病院を代表して私（副院長の岩崎）が出席しました。

今年度の広島県医療功労者表彰は、当院を含めて2団体、3個人に贈られました。伝達式に先立ち、湯崎英彦知事との懇談の場が設けられ、知事からは対象者それぞれに今回の表彰対象に関連する質問がありました。

当院へは「近隣に大きな工場群があるが、これに対して何か救急として対応していることがあるか？」との質問がありました。

岩国・大竹の沿岸地域では、三井化学、三菱レイヨン、ダイセル、日本製紙など大型工場群が立ち並びコンビナートを形成しています。この工場群で年1回、「岩国・大竹地区特別防災区域協議会防災訓練」が開催されています。長大な消防車からの放水訓練は圧巻ですが、この訓練に当院のDMAT隊と共に臨席したことや、工場内で使用されるシアンが元で、事故によりシアン中毒患者が発生した場合に備えて、解毒剤を準備していることなどを報告しました。

その後伝達式が執り行われ、湯崎知事からは、引き続き救急医療への協力を依頼され、記念撮影をして式を終了しました。この表彰を機会に地域の救急医療に、より貢献することを再認識したところです。



表彰式（湯崎広島県知事より）



地域医療連携病院医院のご紹介① 津村眼科医院

【診療科目】眼科

【院長名】津村 清

【住 所】〒739-0603 大竹市西栄2-15-17

【電話番号】0827-52-4856

【診療表】

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:30	○	○	○	○	○	○
14:00～18:00	○	○	/	○手術	○	/

※水曜日、土曜日、午後休診。日曜日、祝日は休診。

木曜日は午後は手術日。ない場合は診察あり。

【診療内容の特徴など】

●開業の時期●

昭和41年に両親が大竹市元町で開業し、その後今の西栄に移転しました。そして2000年に帰ってきて親から継いだという形になります。継ぐ前は広島記念病院で勤務しておりました。広島西医療センターの先生方とは、勤務していた病院が一緒だった時もあり繋がりを感ずいます。

●医院の特徴●

元々、大学時代には眼底疾患を専門にやっていたので、それを専門にみていきたいという気持ちもありますが、開業医でありますので眼科全般も診させてもらっています。眼科は糖尿病の合併症などでかわりがあり、広島西医療センターの糖尿病・内分泌・代謝内科の太田医師とは患者さんのことで関わり合いです。

診療で大切にしている事は、ゆっくり丁寧な診察を心がけています。広島西医療センターではMRIやCTなどの検査を依頼することもあり、とても助かっています。

●特に取り組んでいることや今後について●

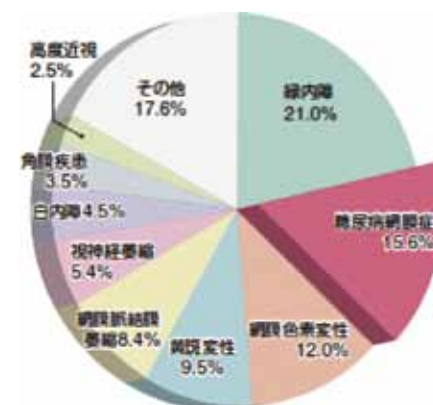
普通の眼科に比べて、白内障の手術を開業してから行っているのを長く続けていけたらと思います。

眼科の特徴としては機械の診察が多いのが特徴です。新しい医療機器はどんどん進化したようになってくるためついていくのに大変ですが、最新の医療を提供できるように心がけています。

●先生の趣味●

映画、演劇など外で見るのが好きです。50歳を過ぎた頃から夫婦で見に行くようになりました。

旅行にも行きたいのですが、なかなかいけないのが現状です。



視覚障害の疾患



地域医療連携病院医院のご紹介②

レディースクリニックとよしま医院

【診療科目】産婦人科

【院長名】豊島 博幸

【住 所】〒739-0612 大竹市油見3丁目19-6

【電話番号】0827-53-7789

【診療表】

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:30	○	○	○	○	○	○
14:00～18:00	○	○	○	/	○	/

※木曜日、土曜日午後休診、日曜日、祝日は休診。

【診療内容の特徴など】

●開業の時期●

1995年（平成7年）4月です。阪神大震災の年です。思い出深いのはその当時震災の影響で新大阪からの新幹線が不通の時期でした。医院用のレセコンソフトの会社が京都にあって、自ら開発したソフトのインストールのため社長自ら伊丹～福岡と飛行機を利用して訪問されたのです。感激し今でもその会社と交流があります。

●医院の特徴●

無床の産婦人科ですので、妊婦健診、婦人科疾患、更年期、一般不妊治療が柱です。感染症の患者さんが少ないためか子供たちの予防接種もやってきます。

もっとも大きな特徴は院内処方原則としていることです。その理由は妊娠中、授乳期の服薬指導の経験があったからです。添付文書だけを読むとその時期に安心して服薬可能な薬剤はほぼ皆無です。しかし意外なことに禁忌の薬剤は非常に限られています。開業当時は、服薬の重要性とリスクを説明するのは一般の薬剤師さんでは難しいと考えていたからです。（今ではその方面で優秀な薬剤師さんが増えていると思いますが）

●特に取り組んでいることや今後について●

全国的な産婦人科医の減少の影響からか患者さんは旧大野町から岩国市の範囲で来られます。しかしクリニックで行える診療は非常に限られていますので岩国市から広島市までの基幹病院への窓口としての役割を果たそうと取り組んで来ました。昨年度の紹介状は約250通になっています。また当院の半径1Km以内には内科、外科、小児科、整形外科、耳鼻咽喉科、皮膚科など診療所があります。それぞれのプライマリーケアを生かした連携で仮装総合病院を築けたらいいなと思っています。

●先生の趣味●

写真が答えです。予防接種やお母さんの付き添いで来た子供たちを洗脳して同志を増やしていきたいです。



平成28年度も…

大竹ふれあい健康・福祉まつりに参加しました



地域連携担当師長 安部 亜由美

10月23日(日)サントピア大竹で開催された大竹ふれあい健康・福祉まつりに参加しました。当院から毎年、看護師・理学療法士・栄養士が参加し各種身体測定、運動相談、栄養相談を行っていますが、今回は新たに医師2名による禁煙相談コーナーも設け参加しました。開演と同時に長蛇の列となり、たくさんの来場者で大賑わいしました。

来場者の大半が70～80代の方でしたが、みなさん健康への意識が高く「毎年ここには来ると」体組成測定や血圧測定、食事・運動相談を受けていました。

市民の皆様と直接話をして逆に元気を頂きました。また健康作りのお手伝い出来ることを病院職員として幸せに感じた1日でした。

実施内容及び来場者数

	内 容	担 当	参 加 数			昨年度参加数
			男性	女性	合計	
1	身長測定	看護師・事務部	46	139	185	169
2	体重・体組成		46	137	183	166
3	体組成・説明		41	125	166	169
4	血圧測定		39	129	168	163
5	運動相談	理学療法士	56	57	113	127
6	栄養相談	管理栄養士	30	93	123	144
7	禁煙相談	医 師	8	18	26	
	延べ来場者数		266	698	964	



大竹ふれあい健康・福祉祭り会場（サントピア大竹）



コーナー案内



広島西医療ブース



体組成(脂肪、筋肉、骨、水分)測定



血圧測定



栄養相談 (栄養管理室)



運動相談 (リハビリ部門)



禁煙相談 (左: 生田医師 右: 立山診療部長)

日本医師事務作業補助者研究会・広島地方会に参加して

医療クラーク(神経内科) 木 邊 愛 実



平成28年9月4日に広島県医師会館にて行われた「日本医師事務作業補助者研究会・第5回広島地方会」に医師事務作業補助者(医療クラーク)3名が参加しました。今回は「飛躍しよう！医師事務作業補助者に求められるもの！」というテーマで医師、事務(経営)、医師事務作業補助者の3つの視点から見た、医師事務作業補助者の役割や取り組みについての講演でした。

医師事務作業補助者からだけでなく、他職種からの視点で見た現状についての意見も聞くことができ、また他院での業務内容や医師が求めているものについても知ることができました。

医療機関では医師への負担軽減を図ることを目的として医師事務作業補助者を導入しており、その目的達成のためには、私たちは知識をより深め、能力を向上させることが必要だと思いました。

当院では、医療クラーク13名(循環器科、消化器科、総合診療科、外科、整形外科、泌尿器科、神経内科、若葉病棟に各1名、血液内科2名、書類係3名)が配置されています。カルテ代行入力、診断書や紹介状の作成、学会発表のデータ収集などを行っていますが、診療科によって業務内容が異なる部分があり、知識、能力向上のためには、今後も全体での情報交換や研修などが必要と感じました。



地域の訪問看護師との連携

平成28年10月6日(木)に「第5回地域訪問看護連携ネットワーク連絡会」を開催しました。院外から10名、院内から15名の参加がありました。

この会は地域医療の中で継続的に看護を提供するため、大竹市内及び近郊の訪問看護師、保健師さんと「**顔と顔の見える関係をつくる**」ということでH26年度に始めた会です。今回は病棟より在宅支援した事例を報告しました。退院前訪問を実施して在宅退院後の生活環境を実際に確認することで、必要な介入を具体的に考え支援したことなど事例を通して、病棟看護師の看護の振り返りを行うことが出来ました。実際に訪問されている看護師さんとも在宅との連携の中での支援方法、連携方法について有意義な意見交換ができました。

今後は退院前後の訪問を行ない、入院中からの継続した看護につなげていきたいと思います。



地域訪問看護ネットワーク連絡会

事例を通してディスカッションを行いました。

退院時に病院がしておくこと

- ・薬の管理方法、一包化などの検討が必要
- ・生活を考えた食事計画になっているか
- ・高齢者やその人に合わせたパンフレットの工夫
- ・訪問看護師との連携ノートの活用（役立っている）

GW
の
意
見

病棟看護師に在宅での生活へ目を向けてほしい。（病棟と在宅での生活の違いを理解）

在宅療養の限界は看護側が決めてはいけない

「生活をしていく」ということに視点、物事を見ていく。退院前訪問も環境だけでなく生活できるかを見る。



栄養士のつぶやき ⑰



食事に関するお悩みごとはありませんか？

主治医から、「食事療法が必要だね」と言われても・「食事療法って何?」「何を食えば良いかわからない」「食事療法がうまくいかない」など日常生活で、食事に関するお悩みごとはありませんか？

当院では入院中の患者さん、外来の患者さんを対象に、病気や症状に応じて、その治療や予防のための栄養相談を行っています。

内容は食事を準備する際に気をつける点や、何をどれくらい食べたら良いか、調理の工夫などをわかりやすく説明させていただき、患者さんやご家族の生活、食事の習慣にあわせて実践できる目標を一緒に考えています。



■対象疾患の一例

糖尿病・肥満症・脂質異常症・心臓病・高血圧症・腎臓病・肝臓病・アレルギー・がん・嚥下障害・低栄養・手術後の食事（胃腸等）・自宅退院後の食事 他

■実施日時 入院：月～金 8:30～17:00（土日祝の実施については要相談）

外来：月～金 8:30～17:00

■料金 有料（疾患により一部無料）



“栄養相談を受けてみようかなあ”と思われたら、一度、管理栄養士または主治医、看護師へお声かけ下さい。私達と一緒に“お悩み”を解決しましょう！



還暦お祝い会「～にじいろの花束～」

療育指導室 保育士 飯塚 結花



平成28年9月21日(水)に還暦お祝い会を行いました。今年度は6名の方が還暦を迎えられました。今年のテーマは「にじいろの花束」。同じ時代に生まれ、それぞれの道を歩まれ、その人生を色に例えると、どんな色になるのでしょうか。きっと色彩あふれる60年の歴史を刻まれた虹色になるのだと思います。歩んでこられた色を一束にして会場を虹色に飾り、華やかな彩りのあるお祝い会を開催しました。

お祝い会では、病院職員を代表して河原診療部長、渡邊神経内科診療部長と2若葉病棟古川看護師長の3名よりお祝いの言葉を頂きました。また、あゆみ病棟自治会の和田会長とわかば保護者会の堀田副会長もお祝い会に駆けつけて下さいました。そして、指導室職員からの出し物では、還暦者の方々がお生まれになられた昭和31年、32年の頃の時代を紹介し、職員が扮した還暦者の方々と同じ年齢の長渕剛さんやアンルイスさん等の著名人が、還暦者のお一人お一人に合う色の花を一輪と家族や職員からのメッセージが送られました。最後には、お祝い会が思い出になり、第二の人生のスタートになるようにという願いを込めて「上を向いて歩こう」を皆で歌いました。本人そっくり！？のゲストの登場やパフォーマンスに、笑いあり涙あり感動ありと楽しく愉快で明るい雰囲気となりました。

また、今年度もサプライズゲストとして、赤いちゃんこに赤い帽子姿の奥谷アンデルセンター長がケーキを持ってお祝いに駆けつけて下さいました。アンデルセンター長も、療育指導室長も今年還暦を迎えられたということで、還暦者がいっぱい賑やかなお祝い会となりました。



河原診療部長の挨拶



長渕剛さん(?)の登場に会場もわき上がる



奥谷アンデルセンター長もお祝いに



記念撮影



記念撮影(カープのスライリー?)



患者図書室から



「知りたい気持ち」 ～お手伝いしたいから～

以前、この広島西医療センターNEWSで患者図書室は「病院内の癒しの空間」であり、パズルや折り紙、ぬりえ、マンガなど、癒しのアイテムをたくさんご用意し、利用者の皆さんに楽しんでいただいていることをご紹介しました。(2016年広島西医療センターNEWS3月号)今回は患者図書室のもうひとつの顔? 「病気や健康に関して、調べることが出来る学習の場」についてご紹介します。



皆さん、「インフォームド・コンセント」という言葉をお聞きになったことがありますか。

インフォームド・コンセントとは「医師が診断や治療法について十分に説明し、患者さんがそれに同意したうえで治療をすすめること」で訴訟社会のアメリカで生まれた考え方です。患者さんが自分の治療法を決めるのが当たり前のアメリカとは違い、医療訴訟も少なく、「病気のことはお医者さんにお任せ」という患者さんが多い日本ではあまり馴染みのない言葉かもしれません。

医師の説明を十分理解するには、患者さんご自身も病気について学習されることが望ましいです。しかし現在インターネットなどの普及で、だいたひ調べやすくなったとはいえ、一般的には患者さんが独力で病気や治療法について調べることは難しく思われます。患者図書室はその一助となるために病院内に設置されました。

患者図書室は皆さまの「知りたい」というお気持ちを、微力ながらお手伝いしたいと考えています。

どなたでも利用できます。ぜひ、お気軽におこしください。

患者図書室では下記の情報についての本も多数ご用意しています。



病気や健康に関する本コーナー
手前はパンフレットコーナー



医療情報検索のためのパソコン
画面は優良医療情報サイトURL集「しらべる君」



院内の掲示板で新しく入った
本など紹介しています。
写真はイートイン。

○生活習慣病の予防

病気になる前に、病気予防の正しい知識、病気の兆候に気づき、早期発見に役立つ情報。

○病気になってから

日常的な自己管理に関する情報。

○ご家族にも

患者を支え、ともに生活する家族にも、病気や治療法について正しい情報。

○医師とのコミュニケーションのとりかた

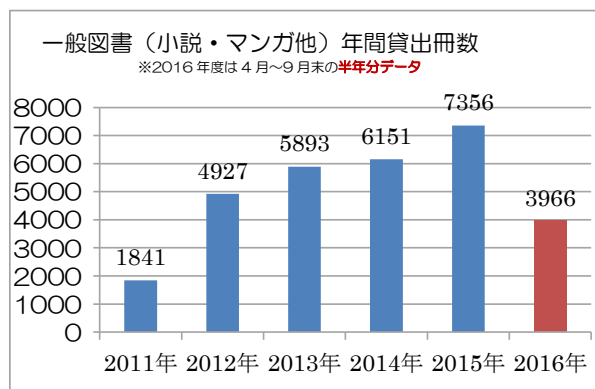
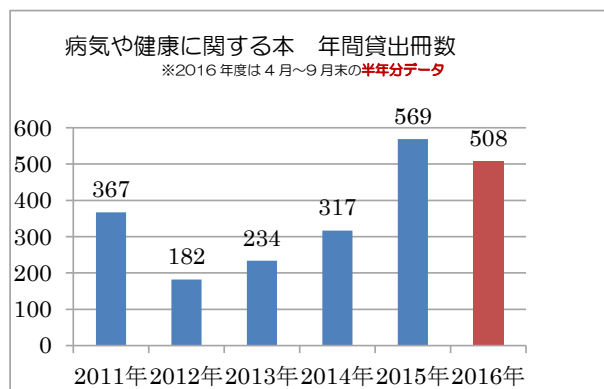
要領よく、自分の思いを伝え、医師に質問する時に役立つ情報。

※図書室のおすすめ図書 「一流患者と三流患者 医者から最高の医療を引き出す心得」 上野 直人 著/朝日新聞出版

○退院後の生活に

家族の方、介護の制度、テクニック、考え方に関する情報。

※下記のグラフのとおり、年々、貸出冊数も増えていきます。2016 年度は半年のデータです。



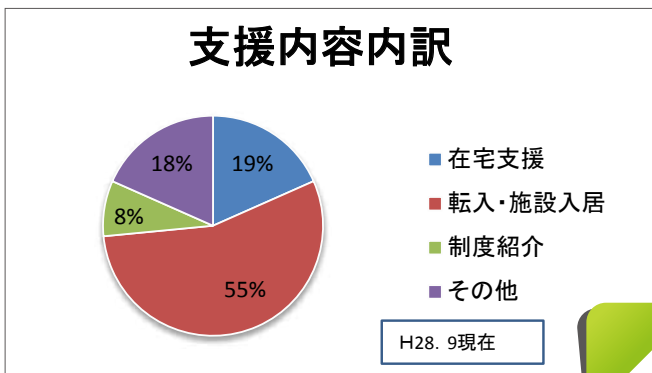
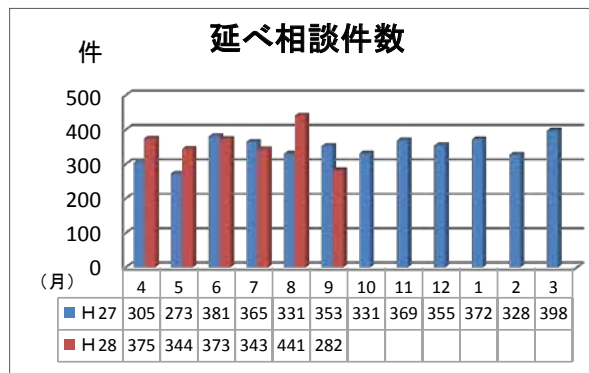
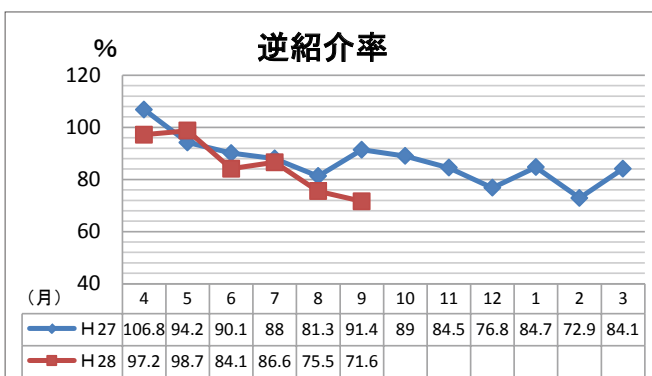
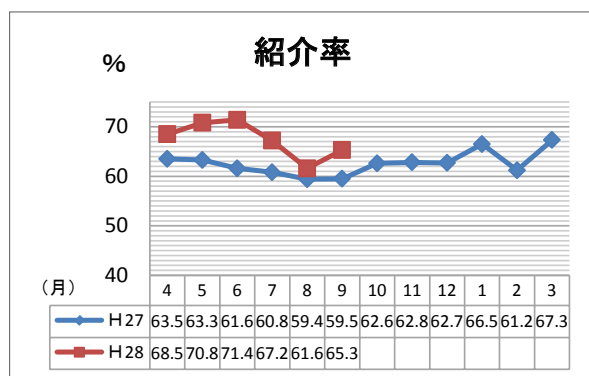
少し足をNova Savor

～ Spirits dancing in the flesh ～

良い太鼓の演奏を聞くと、魂を揺さぶられるような気持ちよさに襲われます。『鼓動』や、『鼓舞』といった生命の源に直結するような言葉に『鼓』の文字があてがわれたのも、あの音を持つ普遍的な力ゆえの必然であったのかもしれませんが、元来、太鼓の演奏は「奉納」の意味合いが強かったのだらうと想像しますが、太鼓の魅力はそういった精神性ではなく、内から溢れ出てくる生命力のうねりなのだと思います。(T.Y)



地域医療連携室実績報告



■編集後記「災害医療」

今年になり、熊本県地域や鳥取県中部地域と大きな地震が発生しています。また、将来発生が予想されている「南海トラフ地震」では死者数は33万人と発表されています。近隣でも昨年発生した広島土砂災害では多くの方がお亡くなりになり、自然災害はいつ、どのような形で発生するかわかりません。

今回、広島岩国道路(高速道路)のトンネル内において車両の多重事故により多くの死傷者が発生したという想定で当院で「広島県集団災害医療救護訓練」を実施しました。この訓練を実施するにあたり、事前にトリアージ研修、机上訓練、リハーサルなど準備期間を含めると半年以上に及ぶものでした。本番訓練では、大竹消防署、自衛隊、県内のDMAT隊、模擬の患者役の学生、当院職員、県内医療機関からの見学者を含めて約300名以上の参加者がありました。訓練の中には模擬の記者会見もあり、本当の災害医療の場面を想定した訓練となりました。訓練そのものの評価は別にして当院にとって今回の災害医療訓練実施は貴重な経験と今後の課題を確認できる意味深いものとなりました。

今回の災害医療救護訓練にあたり、様々なご指導とご尽力いただいた、県立広島病院の竹崎救急科/麻酔科部長、社会医療法人里仁会 興生総合病院 田治インストラクター並びに多くの関係者に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

●●● 外来診療担当医表 ●●●

広島西医療センター

広島西医療センターホームページでも紹介しています。ご利用ください。
http://www.hiro-nishi-nh.jp/

※受付時間 午前8時30分から午前11時まで

…前号からの変更箇所

平成28年11月1日現在

			月	火	水	木	金	備 考
総 合	1	診	長澤 佳郎	小池 隆夫	瀬尾 卓司	生田 卓也	角野 萌/中村浩士	下記の専門領域以外の新患
内 科	専門領域新患 (紹介患者)		藤堂祐子/山中秀彦 消化器	倉恒 正利 腎 臓	下村 壮司 血 液	坂本 直子 呼吸器	藤原 仁 循環器	月曜日 隔週
	1診	呼吸器/血液	広大(呼吸器)	宗正昌三(血液)	坂本直子(呼吸器)	坂本直子(呼吸器)	広大(呼吸器)	再診外来 予約制
	2診	消化器/肝	藤堂祐子/山中秀彦(消化管)	福原 崇之(肝)	山中秀彦(消化管)	福原 崇之(肝)	藤堂祐子(消化管)	
	3診	呼吸器/内分泌代謝/血液	鼻岡理恵(消化器)	太田逸朗(内分泌代謝・血液)	太田逸朗(内分泌代謝・血液)	太田逸朗(内分泌代謝・血液)	新美寛正(血液)	
	4診	血 液	新美寛正(血液)	角野 萌(血液)	下村壮司(血液)	下村壮司(血液)	宗正昌三(血液)	
	5診	循 環 器	藤原仁(循環器)	中村秀志(循環器)	藤原仁(循環器)	中村秀志(循環器)	藤原仁(循環器)	
	6診	腎臓/血液	倉恒正利(腎臓)	倉恒正利(腎臓)	高蓋寿朗(特殊外来)	広大(血液)	高蓋寿朗(特殊外来)	
神経内科	1 診	元田 敦子	渡邊千種(物忘れ)(第2・4・5)	渡邊 千種	牧野 恭子	檜垣 雅裕	予約制	
	2 診	牧野恭子(パーキンソン病)	元田 敦子(第1・3)	元田 敦子	檜垣雅裕(頭痛)	渡邊千種(筋疾患)	予約制 PM	
C A P D 外 来			倉恒 正利	倉恒 正利	倉恒 正利	倉恒 正利	倉恒 正利	予約制 PM
インスリンポンプ外来			太田 逸朗	/	/	/	太田 逸朗	予約制 PM
禁 煙 外 来			/	担当医	/	/	/	PM2~4 予約制
小 児 科	一般外来	1 診	金子陽一郎	金子陽一郎	金子陽一郎	金子陽一郎	金子陽一郎	
		2 診	富岡 啓太	富岡 啓太	富岡 啓太	富岡 啓太	富岡 啓太	
			予防接種	慢性外来	乳児健診	慢性外来	/	
	専門外来	小児筋ジストロフィー	伊藤 明子	伊藤明子・福田清貴	伊藤 明子	伊藤 明子	伊藤明子・福田清貴	予約制
		重症心身障害	河原 信彦	河原 信彦	河原 信彦	河原 信彦	河原 信彦	
		発達外来	湊崎 和範	湊崎 和範	湊崎 和範	湊崎 和範	湊崎 和範	
		小児心身症	湊崎 和範	湊崎 和範	湊崎 和範	湊崎 和範	湊崎 和範	
補 装 具			/	/	/	/	木村(第2・4)	予約制
外 科	初 診	石崎 康代	今岡 泰博	嶋谷 邦彦	太田 浩志	嶋谷/今岡/石崎/太田	金曜日交代制	
	再 診	嶋谷 邦彦	太田 浩志	石崎 康代	今岡 泰博			
整形外科	初 診	岩崎 洋一	藤原 祐輔	永田 義彦	/	糸谷 友志	木曜日手術日	
	再 診	糸谷友志/(永田義彦)	永田 義彦	岩崎 洋一	/	永田 義彦		
	再 診	藤原 祐輔	糸谷友志/(岩崎洋一)	糸谷友志/(藤原祐輔)	/	藤原祐輔/(岩崎洋一)		
泌尿器科	1 診	浅野耕助/福島貴郁	浅野 耕助	浅野 耕助	藤井 慎介	浅野 耕助		
	2 診	赤坂 保行	福島 貴郁	赤坂 保行	福島 貴郁	赤坂 保行		
産 婦 人 科			新甲 靖	新甲 靖	/	新甲 靖	/	予約制
皮 膚 科			中村 吏江	中村 吏江	/	中村 吏江	中村 吏江	水曜日手術日
眼 科			広大医師AM	/	/	/	/	第2・第4月曜日

●予約窓口●

- ・患者さんからの直接予約・予約変更は、平日13時～16時までに予約センターへご連絡下さい。
- ・医療機関からの予約 (CT・MRI 含む) は、地域医療連携室へご連絡下さい。
- ・予約窓口がわからない場合も、地域医療連携室にご相談下さい。

糖尿病教室を開催しております

参加ご希望の方は、あらかじめ予約をお願いいたします (当日予約可能です)。

問い合わせ先：栄養管理室(0827)57-8192

■病院代表電話番号 TEL (0827)57-7151

■予約センター(直通) TEL (0827)59-0251

■地域医療連携室

ダイレクトイン (0827)57-7183 (内線2140)

FAX (0827)57-7701